

中央警察大学紹介ビデオナレーション

中央警察大学は、国家の安全及び安定した社会づくりのために、警察幹部を養成するわが国唯一の教育機関です。

本校の前身は、1936年に創立された中央警官学校です。その後1995年に中央警察大学と改められ、各学部ごとに、修士及び博士課程が増設されました。

「誠」を校訓に、「力行」を校風に掲げ、教師と学生が一丸となり、よりよき警察教育機関として、時代とともに歩んでまいりました。

本校は、大きく警政管理学院と警察科学技術学院の二つに分かれ、警政管理学院には行政警察学科、公共安全学科、犯罪防止学科、外事警察学科、国境警察学科、行政管理学科、法律学科があります。警察科学技術学院には、刑事警察学科、消防学科、交通学科、情報管理学科、鑑識科学学科、水上警察学科、防災研究所があります。

その他にも、共通科目教育センターを設置して、警察官の専門知識や技能だけではなく、一般教養を履修し、幅広く学習ができるようになっています。

警察の専門分野では、学科の専門知識や理論だけでなく、実務的な技能を学べるよう、刑事鑑識ビルを建設し、法廷などさまざまなシュミレーションを設定し、数多くの技能知識をそこで学習することにより、将来直接実務に生かせるように取り組んでいます。

また、警察官になるためには、このような専門技能だけではなく、射撃や柔道などの訓練による健康な体づくりも不可欠です。危険を伴う職場環境に順応できるよう、いろいろな形で体力づくりを行っています。学生が余暇を通して利用できるジムも完備し、各種競技

に対応できるラウンドも完備しています。

専門訓練がうまく行われるよう授業の中にシミュレーターを採り入れたり、ある事件の状況をリアルに設定したりしています。それには様々な事態に臨機反応できる能力、処理能力等の習得のねらいがあります。またチームに分かれて演習を行うことで、チームワークや、お互いの意思疎通、相互協力といった能力養成も学習の一環です。

知識や技能の習得がより上達するためには、学んだ理論が実務に生かせなければなりません。そのために一年生以外、夏休み期間中、それぞれの専門分野に分かれて、各学科ごと警政署、消防署、海岸巡防署、移民署、矯正署、国家安全局等の実際の警察機関で教育実習を受けています。

実習期間中、学生は実際に現場で学ぶことで、実務を学ぶことができます。

それと同時に、実習という機会を通して、同期生間の絆を深めることができます。実習は、将来の職場環境に早く適応できるよう準備をするだけでなく、警察官になるためのしっかりした心構えを身に付けることにも一役かっています。

一方図書館は実習や訓練が続く学生にとって、落ち着いて自習できる場所です。館内には教師や生徒がゆっくりくつろぐことができるラウンジや閲覧室も完備しております。余暇の時間を利用して、いろいろな書籍を閲覧し、視聴覚も楽しめます。

警察に関する学術研究や国際協力に力を入れようと、本校は世界警察博物館を設立して、世界中から集めた警察関係の文物や歴史的な資料を展示・保管し、特に本校のOBである鑑識界の第一人者李

昌鈺博士の貢献とその名を世に残そうと、「李昌鈺博士マルチメディア」のコーナーを設けています。

本校は人格教育を重視しています。近い将来、より複雑で危険を伴う職場へ立ち向かえるように、チャレンジ精神や向上心を養うために、学生隊、担任教師、カウンセリングの三つのトライアングル体制で、学生の生活をサポートしています。

その他に、学生には娯楽、文芸、スポーツといった様々なサークル活動に参加するよう勧めており、お互い同じ興味を持った仲間同士で、好きな趣味や力を伸ばしていくことを、そのねらいとしています。サークル参加によって、より厚い信頼関係と情が生まれ、学校全体も若者のバイタリティーと活気でみなぎった、暖かい雰囲気の中で、一日を過ごします。

規則正しい生活習慣をつけるため、本校は全寮制です。毎年、夏休みが過ぎれば、新入生がまた入り、それぞれ考えや目的が違った人が同じ目標に向かって、幹部教育を受けていきます。

不安な気持ちで入学した学生も、四年後には、専門知識と技能を身につけ、幹部として巣立っていくのです。

本校の学生は、単に知識だけではなく、心身ともに力強い一人の警察官として、国や社会のために貢献する優秀な人材です。

こうして、多くの壁にぶつかり、挑戦を繰り返しながら、同期生や教師に支えられて、一人前の警察官として巣立っていきます。国の治安のために、健全で優秀な人材を育てていくことが、中央警察大学の使命だと言えるでしょう。